

龍ヶ崎地方衛生組合
視察研修報告

視察日

平成25年10月9日～10日

視察先

・高知県土佐市

仁淀川下流衛生事務組合
衛生センター

視察目的

し尿等の処理管理における衛生事務の状況を研修することにより、広域衛生及び行財政の進展並びに運営の参考とする。

参加者

小泉輝忠 羽成邦夫

視察内容

仁淀川下流衛生事務組合衛生センターは、清流、仁淀川の下流域に位置し、土佐市・高知市（旧春野町）の町（旧伊野町）・日高村の2市1町1村で構成され、管内約7万人のし尿及び浄化槽汚泥の処理をしています。



衛生センターの運営を研修

この施設では、し尿処理工程から発生する余剰汚泥を発酵させ、堆肥化した有機質の肥料「コンポスト」に「よどがわ」を、構成市町村住民を対象として配布しています。「コンポスト」によどがわの料金は、15キログラム入り袋体で100円です。

そして、平成21年度より、組合許可車両に脱臭装置を取り付け、作業時に不快な臭気が出ないよう、収集地域の環境保全に努めています。

また、衛生センター周辺地域の住民で組織する、公害監視委員会を昭和55年から設置し、衛生センターでの日々の業務において、安心で安全な処理水を放流するために、年間数回の委員会を開催し、処理水の放流数値などの監視を行っています。



衛生センター内部を見学

このように、とても環境に配慮した施設ですが、今後の課題も抱えています。一つ目は、大地震等災害が発生した場合です。この場合、構成市町村管内住民の

ために、衛生センターで早期に生活排水の適正処理が可能となるよう、近隣市町村とも連携をする必要があります。二つ目は、構成市町村の増減があつた場合です。徐々に施設も老朽化を迎える状況の中、施設周辺地域住民と協同での施設づくりが必要となります。

龍ヶ崎地方衛生組合でも、汚泥のリサイクルなど環境に配慮した施設となっております。今後も組合管内住民の快適な環境をつくっていく上で、今回の研修を参考にしたいと思えます。



仁淀川下流衛生事務組合衛生センターにて